

本年度の重点目標

・本校の教育力を継承し、人材育成に努める
 ・児童・生徒の興味関心を高め、学ぶ意欲を育てる授業づくりに努める

領域	重点評価項目	中間評価(10月)	総合評価(3月)	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1 学校経営	関係機関と連携し、教育環境の整備に取り組んでいる。 教育方針や教育目標、教育活動に関する説明を適切に行っている。			
2 教育課程・ 学習指導	個々の能力・特性に応じた適切な指導計画を作成し、基礎学力の定着を図っている。			
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業改善を行っている。			
	自立活動や学校行事を通じて、これからの社会に求められる資質・能力の育成を図っている。			
3 生徒指導	LHRや委員会活動を通して、集団の中で自主的な力の育成を図っている。			
	基本的な生活習慣の育成を図り、学校生活のリズムの確立に取り組んでいる。			
4 進路指導	意欲的な社会自立を目指す人間性の育成を図っている。			
	いじめを許さない学校づくりに取り組んでいる。			
5 保健・安全指導	職業観・人生観を育て自ら進路について考え、切りひらいていく力をつけるようキャリア教育に取り組んでいる。			
	進路保障を行うよう関係機関と連携・協力し、進路開拓を行っている。			
6 人権教育	生徒の健康・安全を第一とし、緊急事態や状態の変化に迅速に対応している。			
	医療機関との連携を密にし、生徒の健康管理、保健指導に取り組んでいる。			
7 環境教育	人権尊重の精神を養い、生活に生かせるよう指導している。			
	個々の実態や課題、発達段階を踏まえた人権学習に取り組んでいる。			
8 交流及び共同教育	校内外の美化や清掃活動に取り組んでいる。			
	ゴミの減量、光熱費の節減を図っている。			
9 教職員の現職教育	地域との交流を進め連携を図っている。			
	参観授業やICT活用を取り入れ、指導力研修およびICT活用指導力の向上に取り組んでいる。			
10 センターの機能 の発揮	校内外研修をとらして特別支援教育に関する知識を深めている。			
	特別支援教育の啓発活動を行っている。			
11 その他 学校の取組み	地域支援を更に充実するため、連携を図り組織的に対応している。			
	さざなみ学園との連携を図るとともに、保護者・地域との連携を図っている。			

(注) ・評価については、A B C Dの4段階で示す。

・生徒指導の欄に、いじめの項目を入れること。また、教職員のICT活用指導力の向上、キャリア教育に関する項目について、任意の領域に含めること。

・自己評価：A B C Dの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合(達成度80%以上)はA、おおむね達成できた場合(達成度60%以上80%まで)はB、あまり達成できていない場合(達成度40%以上60%まで)はC、達成できていない場合(達成度40%未満)はDとする。ただし、アンケートの結果等を機械的にA B C Dの評価に置き換えるのではなく、学校の現状を真摯に分析・検討し、今後の学校改善につながるよう、適切に評価すること。